



## 帰国者からのアドバイス①



### 「近郊都市への旅行」

私が帰国間近になって、“やっておけばよかった”と思ったことは、全米の各都市、そして南米・ヨーロッパの各都市に回っておくべきだったというのが心残りでした。

赴任直後、時間はいくらでもある・・・と思っている間に、あっという間に月日は過ぎ、帰国辞令が出た後は会社の引き継ぎ、お世話になった方とのお付き合いや身の整理でほぼ自由な時間はなくなりました。。

そうとなつては、折角アメリカに住んだにも拘らず、本来のアメリカを感じさせるような都市に足を運んだことは少なく、ニューヨークを中心とした全米の主要経済都市にしか行っていないことに気づきました。

また、日本からはなかなか行くことができない南米・欧州にもニューヨークからであれば至近であり、各国の主要都市を空路、陸路を使い短時間で回ることもできたと後悔しています。

もしみなさんも帰国までお時間があるようでしたら、その国、その場所に住んでいるからこそ、日本からなかなか行くことができない街にお出かけになられてはいかがでしょうか。





## 帰国者からのアドバイス②



### 「デワデワの口癖注意」

ひらがなで「ではでは」と書きます。読み方としては“デワデワ”です。

帰国したら、この言葉に気をつけてください。冗談で「ではでは病」とも言う人がいますが、これを意識するかしないかで、帰国してからの周囲のコミュニケーションへの溶け込みやすさが変わってきます。

では、この「デワデワ」をご説明します。

みなさまがアメリカに来たときに、異文化のギャップをマイナスに感じたときに、よく口走っていたことを思い出してください。

日本では・・・こうだった。 東京では・・・こうだった。

これは“日本はよかった”という思いが含まれた表現であったかと思います。

これが日本に帰国すると違います。

アメリカでは・・・こうだった。 LAでは・・・こうだった。

これは“アメリカはよかった／よくなかった、”という思いが含まれた表現の場合です。

職場ではビジネス上のことになりますが、ことプライベート、特にご家族がお友達の中でこの「アメリカでは・・・ああだった、こうだった」を繰り返し言わないように少し気にかけてあげてください。

もし話を聞いている人がアメリカに住んだ経験がなかったとしたら、その方は自慢話として受け取られるかもしれません。最初は興味本位で聞いてくれていた友達も、アメリカでは・・・を繰り返しているとだんだん嫌気がさし、距離を置くようになってくるかもしれません。

この言葉をいつまでも共感してうなずいてくれるのは、一緒に住んだ家族、アメリカ生活を同じ時期に経験した人たちです。

帰国してから同じ時期に駐在生活をしていた友達が集まったときに、

“アメリカでは・・・だったよね！”の会話を楽しんでください。

